

觀世屋敷の舊跡

元

滋

京都の大宮通り今出川上つた處を、今でも觀世町と稱して居るが、其處に觀世の屋敷があつた。

其土地は足利將軍義滿に流祖が拜領したもので、當流九代黒雪まで京都の其拜領地に住んで居たが、黒雪の代に江戸に移つてからは下屋敷と云ふ様な形になつたらしい。そして明治維新まで矢張り當家の有であつたが、維新後になつてから其土地は政府に返上したのである。

其後其土地の所有者は度々變はつたさうだが、其土地で事業でも始めると、何か知らぬりがあると云ふので、土地の持ち主が屢々變はつたのだ、などと云ひ傳へられて居るのである。

其舊跡には當流の先祖代々が祀つた稻荷様と辨天様の祠がある。稻荷様の方は今日まで昔の形を存して居るが、辨天様は中絶して跡かたもない。

其此外舊跡には、觀世水の起源を爲した古い井戸がある。其井戸も今日尙残つて居る。此井戸は非常に深い井戸で、昔は其水が眞中で渦を卷いて居たと云ふので有名になつたのである。其渦の卷いてのを圖案化したのが、

所謂觀世水であつて、其れを水巻きとも云ふのである。此井戸は何十年となく手入れをされないのだから、頗る荒廢して、一寸覗いて見ても井戸の底が見えない位になつて居る。そして此井戸には、昔から白蛇が住んで居ると云ひ傳へられて居る。

此土地には今桃園小學校が建設され、一方今出川通りに面した地面には銀行が建つて居る觀世水の井戸は學校と銀行との隣接地になつて居る。

觀世屋敷の舊跡は、學校や銀行等に分割されたのであるが、此井戸のある處の袋地だけは、是非觀世家の所有にして置いて貰ひたいと云ふ話が此土地の持主から私へ相談されたので、一昨年其二十坪ばかりの袋地を私が買入れた。そして今年の三月に此地に觀世社を建立して稻荷様と龍王様とを合祀したのである。この祠は桃園小學校の門を入つて左側の作法室の前であつて、井戸はそれよりも後ろになる。

寫眞は新しく建立した觀世社と、同地に
ある觀世水の井戸である。